

報告事項

奨励品種決定調査への主な供試系統・品種について

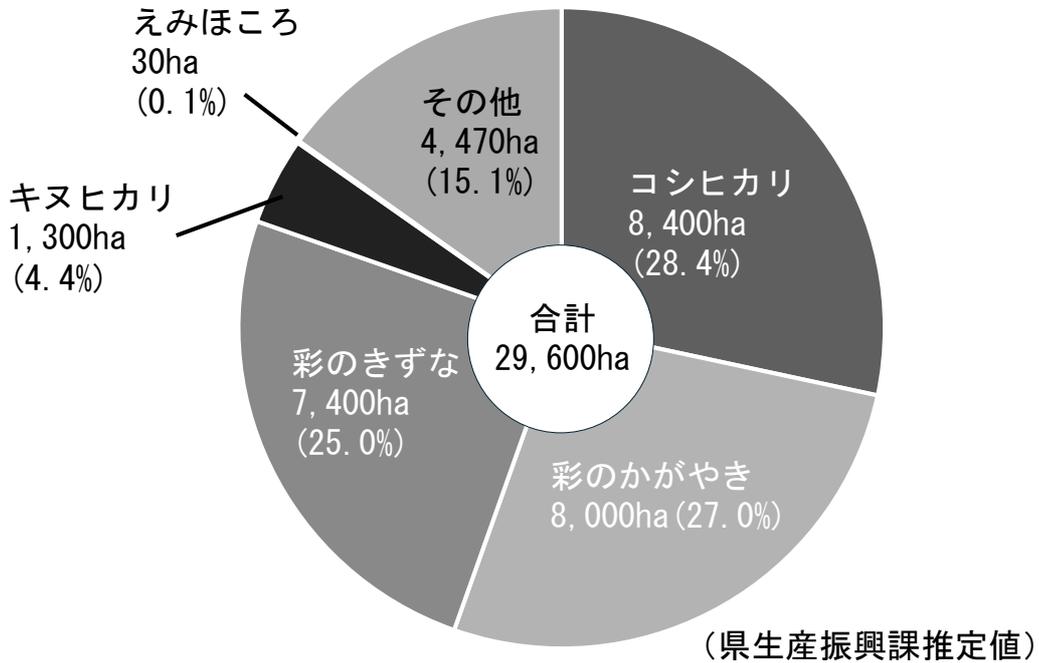
県内の水稻の栽培状況----- 1

令和 8 年度水稻本調査供試系統・品種---- 2

令和 7 年度麦類本調査供試系統・品種---- 7

県内の水稲の栽培状況

1 水稲品種別作付面積割合（令和6年産）



2 主要品種の作期（5月13日植え）

	早晚性	出穂期	成熟期
彩のきずな	中生早	7月25日	9月2日
キヌヒカリ	中生早	7月28日	9月6日
コシヒカリ	中生早	7月28日	9月6日
えみほころ	中生晩	8月1日	9月10日
彩のかがやき	晩生	8月9日	9月22日

(R7年主要農作物奨励品種特性表より抜粋)

3 「彩のかがやき」の1等米比率の推移

H22年	H28年	H29年	H30年	R1年	R2年	R3年	R4年	R5年	R6年	R7年※
0.2%	96.9%	95.8%	67.0%	86.6%	20.4%	89.4%	93.6%	13.0%	21.5%	33.4%

(農林水産省「米穀の農産物検査結果等」) ※ R7年産はR7. 11. 30現在の数字

奨励品種決定調査への主な供試系統・品種

農業技術研究センター

1 令和8年度水稻本調査供試系統・品種

品種系統名	組合せ		熟期	供試開始年度	特徴
	母	父			
にじの きらめき	西南 136 号 (なつほのか)	北陸 223 号	中生	令 8	高温登熟性「やや強」※ ¹ 良質、良食味 縞葉枯病、穂いもち抵抗性※ ¹
むさしの 27 号	むさしの 23 号	むさしの 21 号 (彩のきずな)	晩生	令 7	高温登熟性「やや強」 良質、良食味 縞葉枯病、穂いもち、ツマグ ロヨコバイ抵抗性 令和 4 年 3 月品種登録済
恋の予感	西海 232 号 (きぬむすめ)	中国 178 号	晩生	令 7	高温登熟性「やや強」※ ¹ 良質、良食味 縞葉枯病、穂いもち抵抗性※ ¹
むさしの酒 41 号	むさしの 27 号	東北酒 218 号 (吟のいろは)	晩生	令 8	酒造適性は良好 縞葉枯病抵抗性
むさしの酒 42 号	栃木酒 26 号 (夢ささら)	むさしの 31 号 (えみほころ)	晩生	令 8	酒造適性は良好 縞葉枯病抵抗性

※¹ 育成地の成績を参照

水稻品種「にじのきらめき」について

1 来歴

- (1) 育成地 農研機構 中央農業研究センター北陸研究拠点
 (2) 交配組み合わせ 西南 136 号(なつほのか)/北陸 223 号

2 特徴

- (1) 出穂および成熟は概ね「彩のきずな」よりやや遅く、「えみほころ」よりやや早い中間。
 (2) 稈長は「彩のきずな」と同等～3 cm程度長い、穂長は「彩のきずな」よりやや短く「えみほころ」と同等、穂数は「えみほころ」と同等～やや多い。
 (3) 玄米千粒重は、同等で、玄米収量は「彩のきずな」より 10%程度、「えみほころ」より 5～8%程度多く、多収である。
 (4) 整粒比は、「彩のきずな」より 10%程度、「えみほころ」より 10～20%低く、玄米品質はやや劣る。
 (5) イネ縞葉枯病抵抗性、高温登熟耐性は“中～やや弱”、穂発芽性は“難～やや難”。

表1 生育・収量・品質調査結果

供試年	移植時期	品種名	出穂期 (月/日)	成熟期 (月/日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	倒伏 程度	玄米 収量 (kg/a)	比較 比率 (%)	層重 歩合	玄米 千粒 重(g)	整粒 粒比 (%)	玄米 タン パク (%)
2018- 2019年平 均	早植	にじのきらめき	7/31	9/9	68.5	21.0	389	0.0	59.3	100	2.9	21.9	50.4	6.3
		彩のきずな	7/28	9/7	65.8	22.5	444	0.0	53.3	90	4.0	21.6	62.0	7.4
		えみほころ	8/2	9/10	77.3	22.0	388	0.0	55.3	93	4.4	21.1	59.1	7.2
	普通期	にじのきらめき	8/19	10/3	72.1	21.6	394	0.8	60.0	100	9.4	22.1	60.1	7.5
		彩のきずな	8/13	9/26	72.2	22.7	452	0.0	50.7	84	10.8	22.2	71.3	8.5
		えみほころ	8/20	10/3	83.9	21.9	366	0.0	56.9	95	5.9	21.9	78.7	7.5
2025年	普通期	にじのきらめき	8/16	9/24	68.3	21.7	393	0.0	58.9	100	4.9	22.6	48.2	7.1
		彩のきずな	8/11	9/18	65.1	23.2	455	0.0	53.4	91	9.9	22.3	57.7	8.3
		えみほころ	8/19	9/27	76.4	21.8	373	0.0	54.4	92	4.6	22.6	74.6	7.5

注)早植は5月中旬・普通期は6月下旬移植,玄米の収量・千粒重は水分15%換算値,玄米品質は穀粒判別器(RGQI20A)の測定値,玄米タンパクはインフラテックNOVAの測定値

表2 特性検定結果

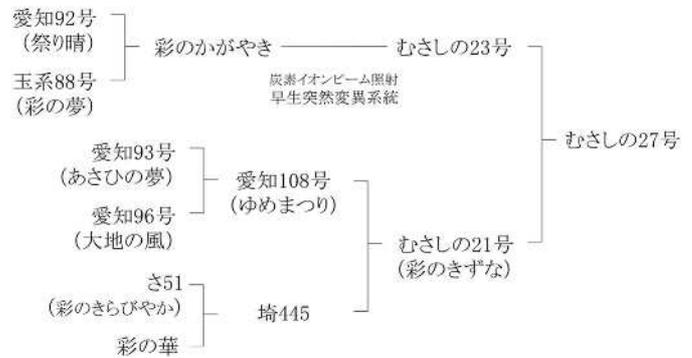
品種名	イネ縞葉枯病	高温登熟性		穂発芽性		
		2018-2019年	2019年	2020年	2018年	2019年
にじのきらめき	発病なし		中	やや弱	やや難	難
彩のきずな	発病なし		-	-	難	難
えみほころ	発病なし		強	やや強	難	難

注)イネ縞葉枯病は自然条件による,高温登熟性は自然条件で5月上旬植,穂発芽性は稲育苗マニュアルの方法

水稻品種「むさしの27号」について

1 育成経過及び系譜

「むさしの27号」は、高温に強く、イネ縞葉枯病抵抗性・穂いもち圃場抵抗性・ツマグロヨコバイ抵抗性をもつ良食味品種の育成を目標として、平成22年に「むさしの23号」を母親、「むさしの21号」(後の「彩のきずな」)を父親として人工交配を行い、令和4年3月に品種登録された晩生の水稻粳種である。



2 品種の特徴（比較品種「彩のかがやき」）

(1) 「彩のかがやき」熟期で安定した収量

熟期は「彩のかがやき」と同等で、収量はやや多い。

(2) 暑さに強く、安定した玄米品質

高温耐性はやや強で 3 ランク程度強く、夏季の高温でも白未熟粒が少なく、県内どこでも安定して良質な玄米を生産することができる。

(3) 「彩のかがやき」並の良食味

玄米タンパク質含量は、「彩のかがやき」と「コシヒカリ」並、アミロース含量は「彩のかがやき」と「コシヒカリ」の中間で、官能食味は「彩のかがやき」並に良食味である。

(4) 複数の病害虫に強い

「彩のかがやき」と同じ、縞葉枯病、穂いもち、ツマグロヨコバイに抵抗性をもつ。

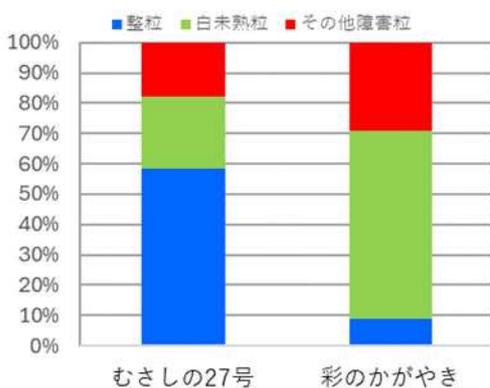


図1 玄米の外観品質 (2023-2025年平均)

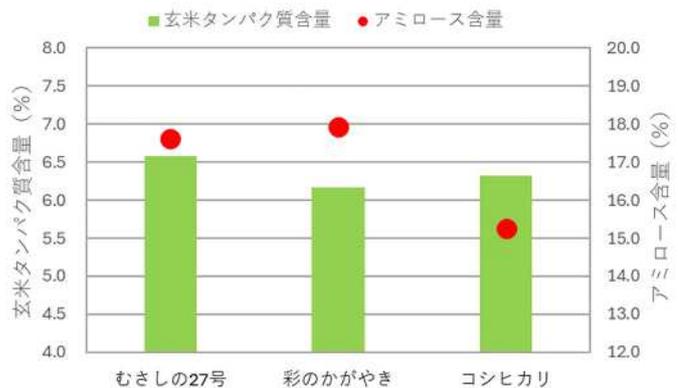


図2 食味関連成分 (2023-2025年平均)

※アミロース含量は 2023-2024 年平均

3 これまでの経緯と令和8年度の取り組み

平成27～30年に奨励品種決定調査における本調査及び現地調査を実施し有望であると判断されたが、「彩のかがやき」後継品種としての必要性の低下から試験は終了した。しかし、近年の高温被害拡大により必要性が高まったことから、令和8年度は県内8カ所で実施し、県内各地での適応性を検討する予定である。

水稻品種「恋の予感」について

1 来歴

- (1) 育成地 農研機構 西日本農業研究センター
- (2) 交配組み合わせ きぬむすめ/中国 178 号

2 特徴（育成地）

- (1) 出穂期は「ヒノヒカリ」より1日遅く、成熟期は2日遅い。
- (2) 「ヒノヒカリ」に比べ、稈長は4cm短く、穂長は同等、穂数はやや少なく、草型は“偏穂重型”。千粒重はやや重く、玄米収量は多収。
- (3) 耐倒伏性は“やや強”、穂発芽性は“やや難”、葉いもち圃場抵抗性は“中”、穂いもち圃場抵抗性は“やや強”、イネ縞葉枯病抵抗性をもち、高温登熟耐性は“やや強”。

表1 育成地における成績

品種名	出穂期 (月.日)	成熟期 (月.日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	精玄米重 (kg/10a)	比較比率 (%)	玄米 千粒重 (g)
恋の予感	8.21	10.7	81	19.3	330	587	115	21.3
ヒノヒカリ	8.20	10.5	85	19.0	359	510	100	20.9

注)1.2007～2013年の平均値
2.平均移植日は6月6日

3 特徴（埼玉県）

- (1) 出穂期は「彩のかがやき」より早植で 14 日、普通期で 10 日遅い。成熟期は早植で 11 日、普通期で 17 日遅い。
- (2) 「彩のかがやき」に比べ、稈長は同等～やや高く、穂長は約2cm短い。穂数は同等～やや少ない。千粒重は同等～やや重く、玄米収量は多収。
- (3) 穂発芽性は“やや難”、イネ縞葉枯病の発病は無し。

表2 埼玉県における成績

	品種名	出穂期 (月.日)	成熟期 (月.日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	精玄米重 (kg/10a)	比較比率 (%)	玄米 千粒重 (g)
早植	恋の予感	8.22	9.26	74	19.7	335	483	113	20.4
	彩のかがやき	8.8	9.16	78	21.8	365	426	100	19.4
普通期	恋の予感	9.2	10.15	73	19.7	406	530	108	21.0
	彩のかがやき	8.21	9.28	67	21.5	397	489	100	21.3

注)1.2025年の数値
2.移植日は早植5月13日、普通期6月23日

2 令和7年度麦類本調査供試系統・品種

麦種	品種系統名	組合せ		供試開始年度	特徴
		母	父		
大麦 (六条皮麦)	関東皮 106 号	カシマゴール	カシマゴール /関係 b564	令7	麦茶用、播性程度 I ^{※1} 、オオムギ萎縮病ウイルス I～IV型抵抗性、オオムギ萎縮病抵抗性
大麦 (六条皮麦)	関東皮 112 号	カシマムギ /関係 b564	カシマムギ	令7	麦茶用、播性程度 I、オオムギ萎縮病ウイルス I～III型抵抗性、オオムギ萎縮病抵抗性

※1 栄養成長期から生殖成長期へ生育相を転換する際に一定条件の低温を必要とする性質を秋播性という。低温の要求程度である播性程度は品種により異なり、I～VIIまで7段階に分類され、数字が大きいほど低温を強く要求する。

六条大麦有望系統「関東皮 106 号」について

1 来歴

- (1) 育成地 農研機構 作物研究部門
- (2) 交配組合せ 「カシマゴール」 // 「カシマゴール」 / 「関係 b564」

2 特徴 ((1) ~ (4) : 「すずかぜ」と比べて)

- (1) 播性程度は I、出穂期は 4 日、成熟期は 6 日早い。
- (2) 稈長、穂長は同程度、穂数はやや少ない。
- (3) 千粒重は重く、収量は 2.0 mm 篩上では同程度だが、2.2 mm 篩上はやや多収。
- (4) 外観品質は同程度、蛋白質含有率はやや高い。
- (5) オオムギ縮萎縮ウイルス I ~ IV 型とオオムギ萎縮病に抵抗性。
- (6) 麦茶加工適性は「カシマムギ」とほぼ同等。
- (7) 茨城県で有望視されている。

表 奨励品種決定調査結果

品種・系統名	出穂期 (月/日)	成熟期 (月/日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	倒伏 程度	収量		同左対標準比率		整粒歩合		容積重 (g/L)	千粒重 (g)	品質 概評	蛋白質 含有率 (DM%)
							2.0 篩 上 (kg/a)	2.2 篩 上 (kg/a)	2.0 篩 上 (%)	2.2 篩 上 (%)	2.0 篩 上 (%)	2.2 篩 上 (%)				
関東皮106号	4/1	5/12	81	4.0	437	0.0	69.4	65.8	96	108	98.8	93.2	714	35.3	3.3	9.4
すずかぜ	4/5	5/18	80	4.2	463	0.4	72.3	61.0	100	100	94.7	79.9	695	31.9	2.3	8.1

- 1. 令和2~4年播の調査結果の平均値
- 2. 倒伏程度は、0: 無~5: 甚の6段階評価
- 3. 容積重、千粒重、外観品質、蛋白質含有率は2.0mmの篩選による
- 4. 品質概評は、1: 上の上、2: 上の中、3: 上の下、4: 中の上、5: 中の下、6: 下の6段階評価

3 令和7年播(令和8年産)の取組

奨励品種決定現地調査(1年目)を県内3か所で実施し、現地適応性を検討中。

4 選定理由

奨励品種「すずかぜ」は、オオムギ縮萎縮病の発生及び収量の不安定性が問題となっており、需要量に対して生産量が少ない逆ミスマッチの状況が続いている。このため、実需者から安定供給が可能な品種の導入を求められている。

「関東皮 106 号」は「すずかぜ」の課題であるオオムギ縮萎縮病に加えオオムギ萎縮病にも抵抗性を有し、「すずかぜ」同等以上の収量・品質であること、近隣他県で有望視されていることから選定した。

六条大麦有望系統「関東皮 112 号」について

1 来歴

- (1) 育成地 農研機構 作物研究部門
- (2) 交配組合せ 「カシマムギ」 / 「関系 b564」 // 「カシマムギ」

2 特徴 ((1) ~ (4) : 「すずかぜ」と比べて)

- (1) 播性程度は I、出穂期は 5 日、成熟期は 1 日早い。
- (2) 稈長はやや短く、穂長、穂数は同程度。
- (3) 千粒重はやや重く、収量は 2.0 mm 篩上では低収、2.2 mm 篩上は同程度。
- (4) 外観品質は同程度、蛋白質含有率はやや高い。
- (5) オオムギ縮萎縮ウイルス I ~ III 型とオオムギ萎縮病に抵抗性。
- (6) 麦茶加工適性は「カシマムギ」と同等。

表 奨励品種決定調査結果

品種・系統名	出穂期 (月/日)	成熟期 (月/日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	倒伏 程度	収量		同左対標準比率		整粒歩合		容積重 (g/L)	千粒重 (g)	品質 概評	蛋白質 含有率 (DM%)
							2.0 篩 上 (kg/a)	2.2 篩 上 (kg/a)	2.0 篩 上 (%)	2.2 篩 上 (%)	2.0 篩 上 (%)	2.2 篩 上 (%)				
関東皮112号	4/5	5/19	71	4.4	450	0.0	56.6	52.1	86	102	98.0	90.5	700	31.4	3.0	10.5
すずかぜ	4/10	5/20	77	4.2	462	0.0	66.1	51.2	100	100	92.5	71.4	682	30.6	2.5	9.4

1. 令和5、6年播の調査結果の平均値
2. 倒伏程度は、0: 無~5: 甚の6段階評価
3. 容積重、千粒重、外観品質、蛋白質含有率は2.0mmの篩選による
4. 品質概評は、1: 上の上、2: 上の中、3: 上の下、4: 中の上、5: 中の下、6: 下の6段階評価

3 令和7年播(令和8年産)の取組

奨励品種決定現地調査(1年目)を県内3か所で実施し、現地適応性を検討中。

4 選定理由

奨励品種「すずかぜ」は、オオムギ縮萎縮病の発生及び収量の不安定性が問題となっており、需要量に対して生産量が少ない逆ミスマッチの状況が続いている。このため、実需者から安定供給が可能な品種の導入を求められている。

「関東皮 112 号」は「すずかぜ」の課題であるオオムギ縮萎縮病に加えオオムギ萎縮病に抵抗性であることから選定した。